

平成28年度 事務事業評価表 A (平成27年度の実績評価)

記入年月日 平成 28 年 4 月 1 日

Table with columns for 事務事業名, 事業区分, 担当, 政策体系, 予算科目, and 法令根拠. Includes details for '健全な財政運営の推進' and '固定資産課税台帳の修正'.

(Do) 1. 事務事業の現状把握(その1)

Table for (1) 事務事業の概要. Includes ① 事務事業の概要 (事務事業の全体像) and ② 担当者が行う業務の内容・やり方・手順.

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

Table for (2) showing ① 手段, ② 対象, and ③ 意図 with corresponding indicators and values for 26-30 years.

(3) 投入量(事業費)の推移

Table for (3) showing input costs and personnel costs for 26-30 years.

Table for (3) showing 27年度事業費実績 and 28年度事業費予算 by category (e.g., 報酬).

(4) 当該年度の実施内容

Table for (4) showing implementation content for 28, 29, and 30 years, including a list of main tasks.

事務事業名	固定資産評価審査委員会運営事務	事務事業No.	10301000735	所属課	総務課
-------	-----------------	---------	-------------	-----	-----

【Do】 1. 事務事業の現状把握（その2）

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？ ・固定資産評価審査委員会の審査体制については、より一層の中立性を求める声が高まり、又固定資産評価審査委員会に対する納税者の信頼を確保するためにも、事務局は原則として固定資産税の評価・賦課を担当する課以外の課において行い、固定資産税の課税担当者が固定資産評価審査委員会の事務を兼ねることのないよう通達があり、H19.4.1から監査・公平委員会に事務局が移管され、H25.4.1から総務課で併任している。
(6) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？ ・地方税の減免措置に関しては、各地方公共団体にあっては当該措置が特別な事由がある場合に限る税負担の軽減であり、適正かつ公平な運営をしなければならない。公益性を理由とする固定資産税の減免については、減免対象資産の使用実態を把握し厳正な判断をする。
(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評価項目

目的 妥当性	①政策体系との整合性（この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？） <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ・課税客体の正確な把握と収納率の向上につながることは、健全な財政運営に結び付く。
	②公共関与の妥当性（なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？）（法定受託事業はその名称） <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ・固定資産課税台帳に登録された価格に疑問があるとき、不服申立てができないと税の公平な負担にならない。
	③成果の向上余地（成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？） <input type="checkbox"/> 向上余地がない ・固定資産評価審査委員会に出された異議申立について、適正に審査し決定されたので、成果の向上余地はない。
有効性	④廃止・休止の成果への影響（事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？） <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ・税の公平な負担が難しくなる。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性（類似事業や統廃合の可能性はありますか？（市以外の取り組みも含む）） （他に手段がある場合）⇒ 具体的な手段、事務事業名 <input type="checkbox"/> 余地がない ・他に手段はない。
効率性	⑥事業費・人件費の削減余地（成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？） <input type="checkbox"/> 削減余地がない ・年2回の固定資産評価審査委員報酬の予算であり、現状では削減余地はない。
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地（事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？） <input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である ・すべての固定資産が対象のため一部の受益者に偏ることはなく公平・公正である。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性（次年度計画と予算への反映）

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括（振り返り、反省点）													
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり														
(3) 今後の事業の方向性	(4) 改革・改善による期待成果（終了・廃止・休止の場合は記入不要）													
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止	（複数回答可） <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる													
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策	<table border="1"> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	成果	向上	削減	維持	増加	維持				低下			
成果	向上		削減	維持	増加									
	維持													
	低下													
(6) 事務事業優先度評価結果														
成果優先度評価結果	⑧													
コスト削減優先度評価結果	⑥													

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価（課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合）
課長確認後の評価 <input type="checkbox"/> A：継続（現状維持） <input type="checkbox"/> B：継続（改革改善を行う） <input type="checkbox"/> C：終了、廃止、休止 <input type="checkbox"/> D：2次評価へ提出	確認欄 <input type="checkbox"/>